

大願寺：不動明王

多くの像でいっぱいの寺の中でも、大願寺の護摩堂にある大きな不動明王像はすぐに目を引く存在です。このお堂は明治時代（1868～1912 年）初期に破壊された後、2006 年に再建された、大願寺でも新しい建物の 1 つです。中にあるこの像は、再建を記念して京都を拠点とする彫刻家・松本明慶により彫られたものです。高さ約 4 メートル、重さ 6 トンの不動明王は、大仏として正式に指定されるのに必要な寸法の条件を満たしています。

この彫像は、その硬さと良い香りから仏像に最高の素材と見なされている、インド産白檀の硬材から作られています。像の横には、かつて寺の境内に生えていた木から取った木材が配置されています。護摩堂は 1 年中公開されており、毎月 28 日には不動明王に捧げられる儀式が行われます。

不動明王（サンスクリット語でアチャラとしても知られる）は、真言宗を含む日本の多くの仏教宗派の重要な仏です。信者を守り導く、動かすことのできない明王として知られ、像の背後にある高さ 8 メートルの炎は、その揺らぐことのない勇気を表す共通したモチーフです。護摩堂の不動明王は、その不動の性質を表すもう 1 つの標準的な象徴である露頭した岩の上に座しており、片方の手には剣、もう片方には投げ縄を持っています。

大願寺は毎年 11 月に不動明王を祝う火祭りを開催します。祈りの言葉が書かれた特別な棒状の木が、大きな焚き火の中で燃やされます。その後、寺の僧侶が焚き火の熱い灰の上を歩いて自身の自制心を試すと共に、仏の神聖な火で自分の体を清めます。訪問者も僧たちの助けを受けて自由に火渡りに挑戦することができます。